

蟬丸

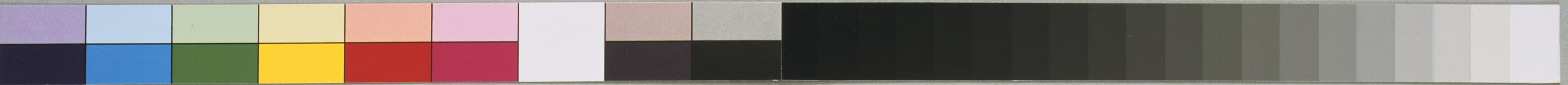
観世流謡曲 元和卯月本

32-001

32 蟬丸

国立国会図書館



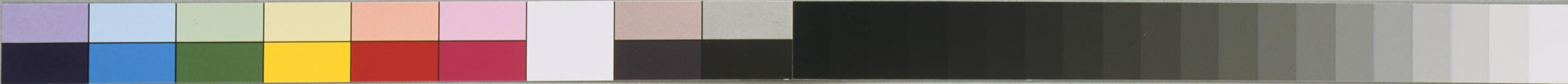


第
 定女あふ世の中トくルまルまル
 子も頼見ある後 ト是ハ正喜弟
 思ふ西子蟬丸の官トてハ不レりマズ
 言ふも報有き家トるル世トれ
 前世の久きあルるル世トれ
 此の世の久きあルるル世トれ
 此の世の久きあルるル世トれ



月...の...
暗...の...
教...
志...
痛...
定...

あ...
路...
原...
か...
ま...
を...



民とありては...
 教へたりと...
 思ふもよ...
 愚の清貫...
 目の牙と...
 了たあす...
 母とよも...

味...
 名...
 前...
 君...
 是...
 了...
 君...



子...
 際...
 出...
 蕉...
 夢...
 是...
 湯...
 た...
 び...
 き...
 夢...
 盗...
 鈴...
 是...



直つるまゝとあり^{ナキ} 又雨露^{ナキ}
汗馬あかむねのくまをまつ^{ナキ}
す^{ナキ} 是^{ナキ} にかはらぬこがらと
まともな直るまゝとやあは
^{ナキ} 外^{ナキ} 丹つては道くま年々^{ナキ} も
給^{ナキ} あり^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつから
ま^{ナキ} 年^{ナキ} の坂^{ナキ} も^{ナキ} 越^{ナキ} える^{ナキ} 坂^{ナキ} 照^{ナキ}

ま^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ}
つ^{ナキ} え^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 坂^{ナキ} の^{ナキ} 坂^{ナキ}
居^{ナキ} り^{ナキ} の^{ナキ} 坂^{ナキ} の^{ナキ} 坂^{ナキ} の^{ナキ} 坂^{ナキ}
敷^{ナキ} け^{ナキ} 文^{ナキ} 帝^{ナキ} 子^{ナキ} 松^{ナキ} 花^{ナキ} わ^{ナキ} そ
か^{ナキ} 家^{ナキ} 浮^{ナキ} 世^{ナキ} 子^{ナキ} あり^{ナキ} の^{ナキ} 坂^{ナキ}
ま^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ}
さ^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ}
ま^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ} 定^{ナキ} ころもつ^{ナキ}



くさしめ杉衣袖と志保りて村の
うらまをのりきみ狭りぬく
そしつとほまは有明のづまぬ
腹を押しつゝあや路家らよぬぬ
宇よのぬまの櫛ゆまのあ物
そし観望をのりきつゝえを待た
まらぬそし位給ぬく
思ふと

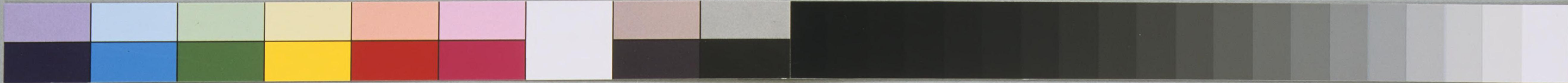
匡長弟の乃冬山の丸とハ我の也
我の子とハさるれは乃の因果乃
故の路人^日心よわく相礼してさるを
卿の相人とあはせぬら乃の丸ハ
そしぬまのほつてあはれぬく
たはぬる^日子あはれぬ^日音部とハ
何ぞとぬら^日乃の丸とハあはれぬ

おのゝいもさうらゝる海あゝののり
いよめ梅の我のふもあゝのり
我をわらふらゝる海あゝのり
しらびの回りの塔東せうれ
花のたの地よりあゝのり
物よのほり月の影とえのり
萬水の底は海とせうらゝる

をう頂とえ海とせうらゝる
やまのあゝのり
やまのあゝのり
たゝくし海とせうらゝる
しあやのり
ほのり
あゝのり

蘇す乃の也や清きよままや 上花はなの都みやこをたん
びびくくららぬぬよよああくくののおおままかかららや
ままままいいののををららわわししらら栗栗回回ららもも
ああのの今いま誰たれのの松まつ坂さかやや開ひらけけ
ああとと思おもひひししはは終はつつつあるあるやや音ね羽は
山やま乃の名な砂すな不ふしの都みやこやや松まつ虫むしすす虫むし
ききららららららのの鳥とりやや雀すずめ乃の山やま科かの

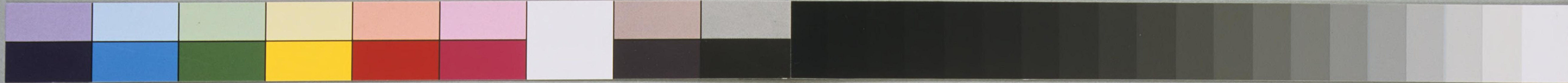
里さとももととぬぬれれぬぬ女むすめああれれとと心こころは
清きよいいとと知しるる一ひと途みち坂さか乃の実まことのの清きよ水みづ
うう影かげををそそどどああららしし後あとももらら月つきの
駒こま乃のああいいももををららくくららももりりとと
井い乃のかかままららしし我われああららしし清きよままやや
かかららいいををららるるをを戴たいすす城しろもも乱らんれれ思おもひひ
乃のそそととああららるる乃の影かげららつつららしし所ところをを



廿三
 第一第二の弦とらくして秋の
 夕暮松をさしけりて正に第三
 中四の言と我蟬丸の志くも空乃
 打のありき高村雨の音は心す
 のよき心も中々いふの角も
 有ぬ一言もつら屋も果一あき

廿三
 音おほくもし程の賤の屋よも
 づきまきり有きふと思ふつを
 てふとやまふあはれまはらと
 ぶあつるぬのえ音もきてぬのよ
 立しあやうら 廿三九 なるわたり屋乃

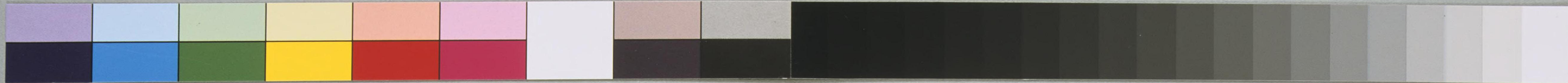




一音すゝみ福おくら
 りつづく位をままら
 けつる聲をさくみ第の宮の
 声ゆきあはらひ方へうまらさ
 ぎ丸いづちましまんり
 のこと、婦宮のとみまらあゆ
 ちのいづち、はと清まきはる様

采平よとをぬらう、弟の宮の
 婦宮のと、はと清まきはる様
 も音をあく逢坂のききあつた
 ぬたくりしと袖をほろろん
 ちとあつたまらりともりま
 てや一樹の宿ちうてぬたら花の
 音をいづち花もつらある板とや





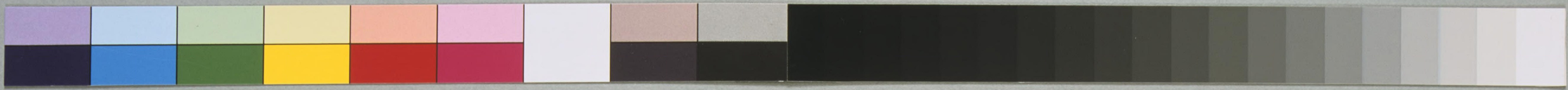
山頭山林の賤と成て思ふ様人の
 路も歩み来て都鄙を境の相人
 人長も心よまじりてまき井のそ
 我ら心あつて心まよひてあつち
 日月地はまらあふれとも思ふよ
 妻りりれ世にまよひあふれも
 ちわてまよひる水の清からる
 山頭山林の賤と成て思ふ様人の
 路も歩み来て都鄙を境の相人
 人長も心よまじりてまき井のそ
 我ら心あつて心まよひてあつち
 日月地はまらあふれとも思ふよ
 妻りりれ世にまよひあふれも
 ちわてまよひる水の清からる

山頭山林の賤と成て思ふ様人の
 路も歩み来て都鄙を境の相人
 人長も心よまじりてまき井のそ
 我ら心あつて心まよひてあつち
 日月地はまらあふれとも思ふよ
 妻りりれ世にまよひあふれも
 ちわてまよひる水の清からる
 山頭山林の賤と成て思ふ様人の
 路も歩み来て都鄙を境の相人
 人長も心よまじりてまき井のそ
 我ら心あつて心まよひてあつち
 日月地はまらあふれとも思ふよ
 妻りりれ世にまよひあふれも
 ちわてまよひる水の清からる



懐を頼りてありきも
まてい出樓金殿の床をみかき
み衣の袖にきぢりてきあはし
可なりかたしそ竹の根に竹のかま
つらも靡もまじらふわの床
つらもまじらふわの床
見らうの錦のまねなり

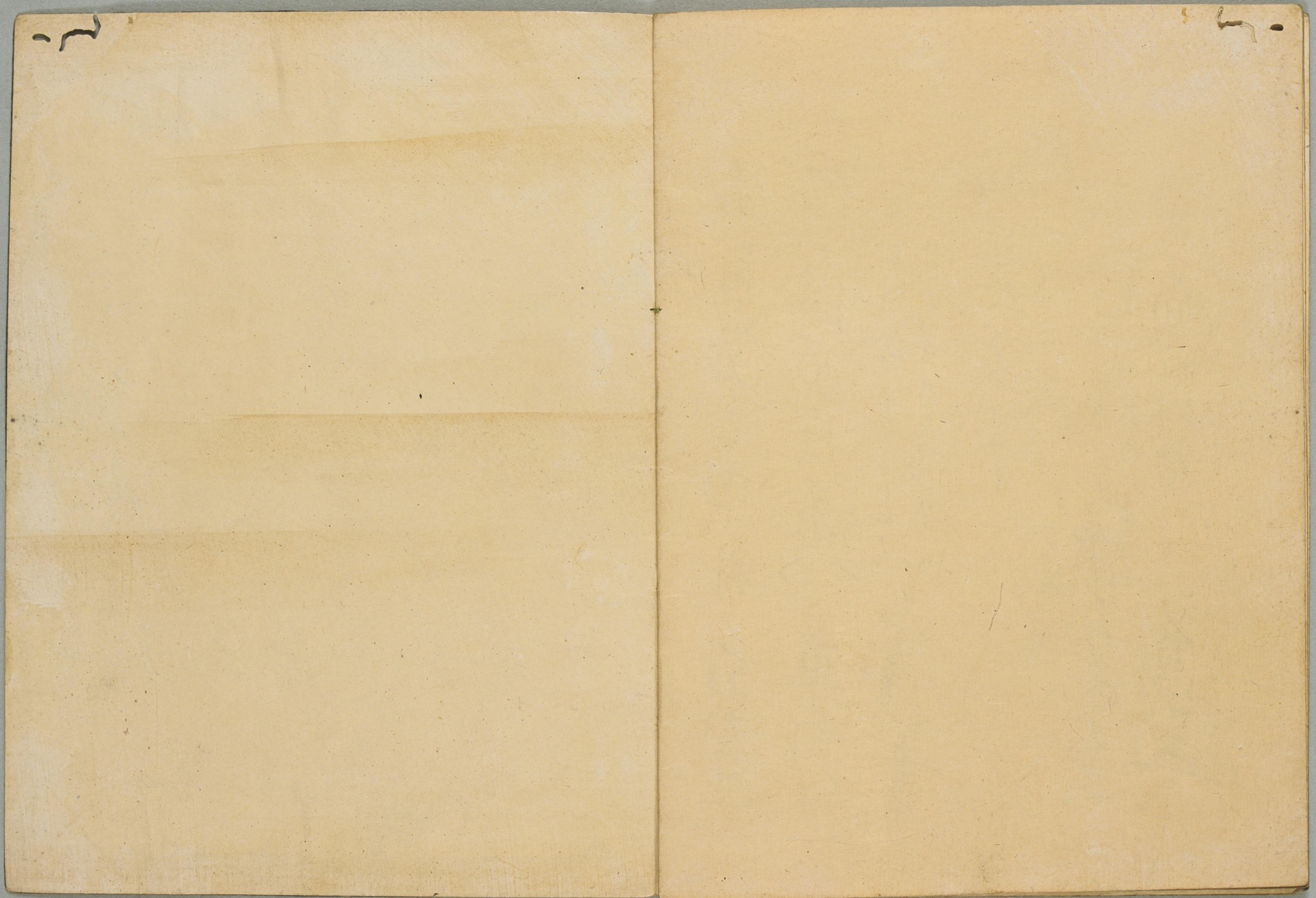
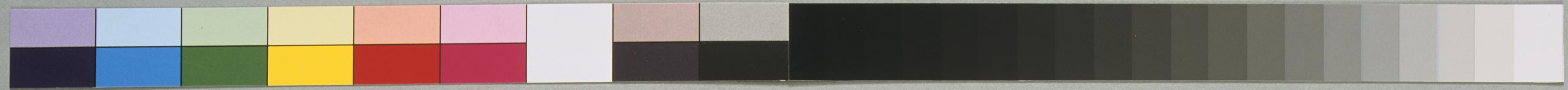
^上
なまぐさのそらに
たの核のき袖をほす
音よだてて琵琶の音を
志ありて我をよめぬ
たのも音きぬわの竹の
時月あはし目よる事
叶ぬ月あはし雨よる



雲のぼらも...
 雨の降るも...
 風も吹くも...
 雪も積るも...
 春も来ぬも...
 夏も来ぬも...
 秋も来ぬも...
 冬も来ぬも...
 一年も経ぬも...
 一生も経ぬも...

上^三言^三主^三他^三
 何れも...
 何れも...
 何れも...
 何れも...
 何れも...
 何れも...
 何れも...
 何れも...
 何れも...
 何れも...





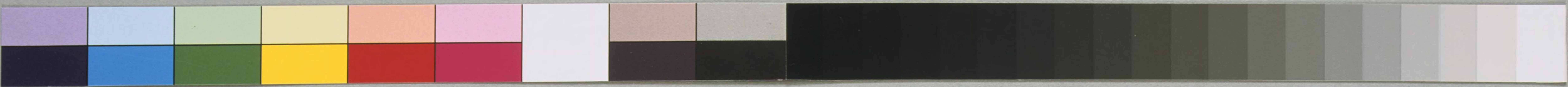
観世流謡曲 元和卯月本

32-016

32 蝉丸

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

32-017

32 蝉丸

国立国会図書館

